

久しぶりの月曜朝礼、みなさんお元気でしたか。インフルエンザやコロナ等の感染症で、お休みの人も多いようですね。

今日は、ちょうど二百年前に日本の長崎にやってきた、ドイツ人シーボルトさんのお話をします。六年生はシーボルトさんの名前を知っているのではないかしら。今長崎では、シーボルトさん関連のフェスティバルを十月十一月までやっているようです。

シーボルトさんはドイツ人でしたが、オランダの船でオランダ人に成りすまして日本に入国しました。お医者さんなので、医学はもちろん、動植物や自然科学、博物学に詳しく、とても優秀な人だったようです。それだけではなく、シーボルトさんはドイツの貴族階級の出身。強い誇りを持っている人だったので、何と決闘を三十三回もしたそうです。それで生き残ってきたというのですから、身体も強い人だったようです。

シーボルトさんが長崎郊外の鳴滝に開いた塾を「鳴滝塾」と言います。この塾では、西洋医学や自然科学など幅広い分野の学問を教えてくれるとの評判が広まり、日本各地から優秀な人（門弟）が集まって来ました。この人たちに、課題を与え、オランダ語の論文や植物標本を提出させていたようです。

珍しい植物の標本を作製したり、立派な論文を書いたりした者には「〇〇博士」のような証明書を出し、さらに優秀な人には、日本

に無い専門書や外科器具、顕微鏡などを与え、もつともつと勉強にいそむように仕向けたようで、門弟の人たちは競って学問に励んだそうです。

シーボルトさんに教えを請うた土生玄碩（はぶ げんせき）さんは、目医者さんでした。「白内障」という目の病気を治すための手術に欠かせない「ベラドンナ」というヨーロッパにある植物からとった液体をもらい受けて、その効果に驚きます。二度目にシーボルトさんの所にベラドンナの液をもらいに行くと、「もう、無い。」との返事。その時着ていた、徳川将軍からもらった「葵の紋服」と交換に、日本にある「ハシリドコロ」という植物が、「ベラドンナ」と同じ植物だと教えてもらいます。その後、土生さんは「ハシリドコロ」を使って、白内障の手術に成功。ただ、「葵の紋服」のせいで、後でとんでもないことに巻き込まれます。

もう一人。伊能忠敬さんの名前を知っていますか。江戸時代、最も正確な日本地図をつくった方です。そのお師匠さんが高橋景保（よしとき）さんで、そのお子さんが高橋景保（かげやす）さん。その景保さんが、日本地図とシーボルトさんの持っていた世界地図を交換したことによって、後々ものすごくひどい目に遭うことになります。これを「シーボルト事件」と呼びますが、どんな事件なのか興味のある人は調べてみるといいでしょう。

シーボルトさんは楠本滝さんという日本人と結婚して、楠本イネさんというお嬢さんが生まれます。イネさんが日本女性初のお医者さんだという説や、シーボルトさんが飼っていた九官鳥に「オタケサン」と教え込んだのがなまって「オタケサン」になり、九官鳥やオウムには「オタケサン」と教え込むものだと勘違いが日本中に広まったという説。シーボルトさんが発見した、新種のアジサイを「オタクサ」と名付けた事や、イネさんの娘の高子さん、つまりシーボルトさんのお孫さんが、ある漫画家のヒロインのモデルになっているという説!?! もあります。どれも本当なのでしょうか。

シーボルトさんのことを深く掘り下げるともすてきですが、シーボルトさんに関係のある人や事柄に目を向けて、自分の興味の赴くままに調べてみるような、興味が興味を呼んで、それが広がっていくような学びをしていけるようになると、楽しいだろうなと感じています。



読書の秋。たくさんの本を読んで、自分の興味のままに知識の幅を広げて行ってほしいところですが、今週は、まずは体調管理に努めてください。無理をして学校に来ることの無いように、健康第一で過ごしてください。

(立教小学校校長 田代 正行)